

ティーンズ プレス Teens Press

～10代のあなたへおくる～

第2号 2015年10月発行
発行：世田谷区立中央図書館
(世田谷区弦巻3-16-8)
電話：3429-1811
FAX：3429-7436
図書館ホームページ
<http://libweb.city.setagaya.tokyo.jp>



講座を受ける受講生のみなさん



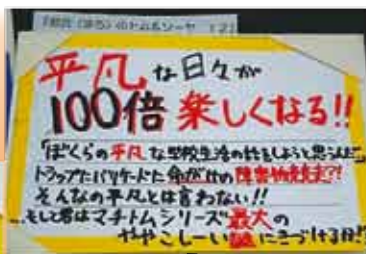
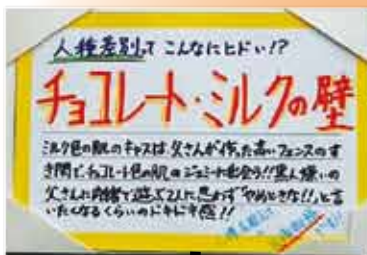
作ったPOPをひとりずつ紹介

「POP」というのは、
Point of Purchase
の略語です。

POP講座を開催しました!



みなさんが作ったPOPは、
紹介した本と一緒に中央図書館で
展示されました。



図書館からの耳よりニュース

二子玉川に引き続き、三軒茶屋にも
“本のない図書館” 図書館カウンター
がオープンします!

8月21日(金)・22日(土)の2日間で、
中高生向けのPOP講座を開催しました。(会
場は、砧図書館と教育センター)

この講座では、POPに書く言葉・キャッチフ
レーズをどのように考えたらよいか、というこ
とについて学び、実際に作成しました。

受講生からは、「またやってほしい」、「学
校でも活かしたい」などの感想がありました。

10月16日に、
「図書館カウンター
三軒茶屋」がオープン
します。図書館資料の
返却や、予約資料の受
取、資料の予約などが
できます。ぜひご利用
ください。



電話：6453-1861

特集①

図書館員が見た！桜木中学校・出張図書館



みなさんは、学校の図書室を利用していますか？

なかには、「図書室まで本を借りに行くのは、ちょっと面倒」という人もいるかもしれません。

そんな人たちのために、桜木中学校では、「出張図書館」というものがあります。毎月、学年ごとに、テーマを決めて選んだ本が廊下に展示してあります。もし、気になる本があったときは、その場で読んだり借りたりすることができます。



1年生：自由研究に関する本



2年生：宿題お助け特集！

毎月のテーマは、先生方が決めて展示しています。なかには、「先生が決めるテーマって堅苦しいのばかりじゃないの？」と思う人もいるかもしれません。しかし、実際に展示されているのは、「自由研究」や「オリンピック」など、みなさんが興味を持ちやすいテーマばかりです。こうして並んでいると、読んでみたくなりませんか？

先生だけでなく、図書委員さんたちも、選書をして、コーナー展示・貸出をしています。1ヶ月経つと、図書室に移動して展示しているので、借り損ねたという人も安心です。

桜木中学校の図書室は、明るく開放的で、閲覧席もたくさんありました。4階にあるため、足を運ぶには少し遠いイメージもあります。そこで考えられた出張図書館は、いつも身近に本があり、平置き展示はとても見やすく、手に取りたくなるものでした。



図書室に移動した紹介本

特集②

★区立中学図書委員さんの交流会に図書館の職員も参加してきました★

6月10日（水）、世田谷区立中学校の図書委員さんが集う、世田谷区立中学校教育研究会図書館研究部（世中研）の交流会に、区立図書館からも職員3名が参加しました。

交流会には、区内全域から8校28名の図書委員が参加して、自校の活動報告や図書室の現状、課題になっている事柄などを発表し合い、交流を深めていました。やはり「延滞者」にどうやって本を返却させるかに頭を悩ませているようで、どこの図書館（学校図書室・区立図書館）も一緒なんだなと思いました。



報告をしている生徒さんの様子

また、図書館職員は、各学校の発表の後、ブックトーク（本の紹介、計5冊）と昔話のストーリーテリング（素話）を行い、最後に区立図書館にもぜひ足を運んでくれるよう宣伝をしました。



図書館のこともアピール
させてもらいました。
（会場：烏山中学校）

紹介した本

『あと少し、もう少し』瀬尾まいこ著（新潮社）

『吹部！』赤澤竜也著（飛鳥新社）

『かさねちゃんにきいてみな』有沢佳映著（講談社）

『ひとりではじめたアフリカボランティア―渋谷ギャル店員―』

栗山さやか著（金の星社）

『犬も歩けば英語にあたる』坂之上洋子著（英治出版）

ストーリーテリング

『おはなしのだいすきな王さま』（『山の上の火』より）

特別企画！

本の編集者ってどんな仕事？

～ポプラ社で編集者として働いている^か門田^た奈穂子^{なほこ}さんに
中学生の子ども読書リーダーがインタビューしました～



本に関わる仕事もいろいろ…

Q. どうして児童書の編集者になられたのですか？

A. 子どものころは、編集者という仕事を知らなくて、童話作家や絵本を描く人になりたいと思っていました。大人になり、本を作る手伝いをする編集者という仕事があるのを知り、目指しました。子どもの時に一番本を読んでいて、その時の本がすごく好きだったので、児童書を希望していましたが、最初に就職をした時は児童書の出版社の募集がなかったので、ビジネス書の出版社に入社しました。そこで8年仕事をして、現在のポプラ社に転職しました。



担当の児童文学作家梨屋アリエさん（左）と打ち合わせする門田さん（右）

原稿を催促（さいそく）する人？！

Q. 編集者って原稿の催促をする人というイメージがあるのですが…
実際のところどうですか？

A. 原稿を催促するのも仕事ですが、主な仕事ではありません。まず企画と依頼、それから打ち合わせ、本のタイトル・帯のキャッチコピー・カバーのイラストやデザイナーを誰にするのかを決める、紙を選ぶ、進行を管理するなど、いろいろなことが編集者の仕事です。

Q. キャッチコピーなどを決める時の決め手にしていることなどありますか？

A. いくつも案を出して、そこから選びます。タイトルから内容がわかりにくい作品は、帯でどんなジャンルの本かひと言で伝えるように工夫します。

作家との打ち合わせで、会話の中から次回作のアイデアを出すこともあるそうです。編集者は、作家と一緒に本を作っている人なのですね。

お仕事裏話

Q. お仕事の中で一番大変なことはなんですか？

A. やっぱり催促です（笑）。ただやみくもに催促するのではなく、作家さんの筆がのるように上手に駆け引きをしないといけないのが難しいところです。

Q. 失敗談はありますか？

A. 誤植（ごしょく）が見つかることもあります。同じ失敗を次はしないように気をつけています。

手がけた本が誰かの心に届くこと

Q. 編集者として気をつけていることは何ですか？

A. 「どうすれば、本を手にとってもらい、読んでもらえるか」ということを念頭に仕事しています。

Q. 編集者になって一番うれしいことは何ですか？

A. 自分が手がけた本が、誰かの心に届くことです。賞をいただくよりもうれしいです。読者からの感想の手紙や葉書は本当にうれしく、励みになります。

図書館員、いざ！お仕事の現場へ！！

後日、ポプラ社に取材に行き、お仕事現場を見せていただきました。ここから本が作られているのだと思うとわくわくしました。担当の『ぼくらシリーズ』（宗田理作）新刊のカバー試作品（右）を見せてもらうなど、とても楽しく貴重な体験になりました。



『ぼくらの魔女戦記1』カバー試作品
(2015年7月に出版されました)

(右) ポプラ社の自販機はゾロリのラッピングでした
(下) 仕事をする門田さん



中学生のこの本オススメ！ ～ブックリスト「部活物語（改訂）」より～

『あと少し、もう少し』 瀬尾まいこ著（新潮社）



この本は駅伝大会に向けて奮闘する6人の中学生の話です。一人ひとりの視点で、同じ場面が描かれているところが、一番引き込まれました。ページをめくると、登場人物たちの思いが重なっていき、思わず「頑張れ！」と心の底から応援してしまいました。陸上部の部長・榊井を初めとした寄せ集めの6人が1つのたすきを繋ぐ、感動の青春物語です。（H. Oより）

『グラウンドの空』 あさのあつこ著（角川書店）



「ピッチャー、見つけたぞ！」甲子園にあこがれるキャッチャーの瑞希は、エースピッチャー不在の野球部に所属しています。そんなある日、幼なじみでチームメイトの良治が、透哉という少年をピッチャーとして連れてきます。しかし、その少年は心に傷を負っていて…。誰だって本気になれるものがある。簡単に捨てられないものがある。そんな少年の物語です。（K. Nより）

図書館員のこの本オススメ！

『大人になるって おもしろい？』 清水真砂子著（岩波書店）



何もかもがぎくしゃくしてうとうとしくて、自分をもてあましてしまう。そのくせ自分でも何が気に食わないのかははっきりしない。そんなモヤモヤした気分になることもありますよね。大人になるのはおもしろいけれど、大人になる前の「今」が本当はかけがえのない時間なのです。くじけることがあっても、ありのままの自分を引き受けて、まるごとの自分を生きてやること。「まあ、仕方ない。こんな自分でもいっちょ受け入れてみるか。」そう思えばしめたものです。誰もかわりに君の人生を生きることはできないのですから…。グド戦記シリーズを翻訳した清水真砂子さんが、十代の君に向けて、真実のエールを贈ります。

『翼を持つ少女（BISビブリオバトル部①）』 山本弘著（東京創元社）



みなさんは「ビブリオバトル」を知っていますか？公式ルールは、
① 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
② 順番に1人5分間で本の紹介をする。
③ それぞれの発表のあとに、参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分おこなう。
④ すべての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員1票でおこない、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。
というもので、「本を通して人を知る・人を通して本を知る」場です。空は、高等部の10年（高校1年）のSF小説大好き少女。彼女が所属するビブリオバトル部は個性的な人間の集まりで、好きな本もそれぞれ異なります。それぞれ話の中で紹介している本もとても興味深いです。ビブリオバトルの様子がゲームというより、本当にバトルといった感じです。読んだことがある本がでてきたりするとワクワクします。部活のメンバーには中学生の子もいるので、中学生向けの本も登場しています。

■ 編集後記 ■

前号の発行から半年強。期間は開きましたが、おかげさまで第2号を発行することができました。さて、前号でこの新聞のタイトルを募集していました。みなさん覚えていますか？いろいろな人からご意見をいただいた結果、「Teens Press」に決定しました！ご協力ありがとうございました。次回の発行は3月ごろを予定しています。今度はどんな企画をしようかな。「こんな企画があったら良いな。」「次号の記事作成に参加したい。」などTeens Pressに協力してくるという人は図書館の職員に声をかけてくださいね。